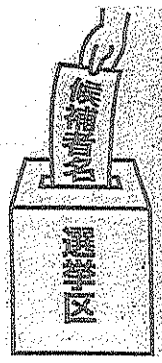
日本共産党　和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1395
'22.7.5

10日は、参院選挙の投票日です

7月10日は参議院選挙の投票日です。今年から来年にかけて、和歌山市ではすべての選挙が行われますが、そのスタートがこの参院選です。このあとは、市長選、知事選、県議選、市議選、衆院補欠選と続きます。暑い時期の参院選ですが、棄権しないようお誘いあわせのうえ投票に行きましょう。

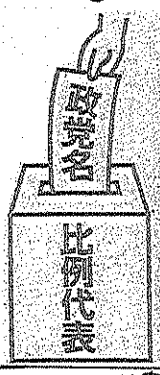
参院選挙の投票方法は、2回の投票です

1番めは



①選挙区は候補者名で

2番めは、

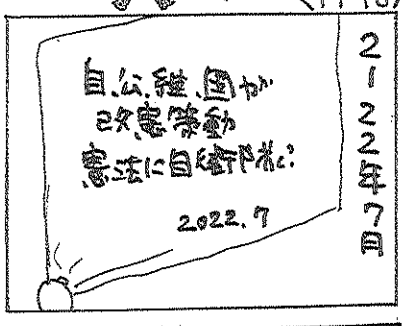


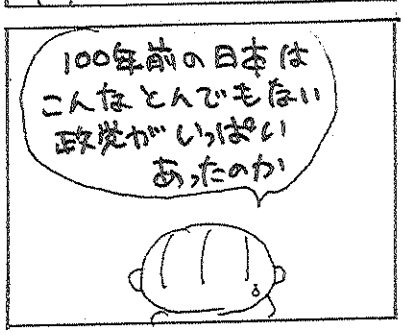
②比例代表は政党名で

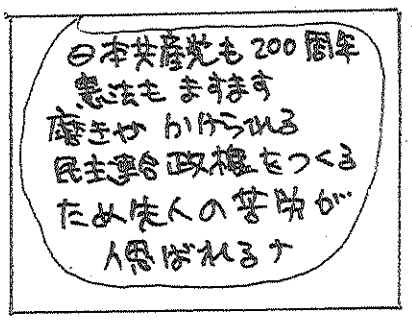
比例代表の投票は、比例代表候補者名でも投票できます。

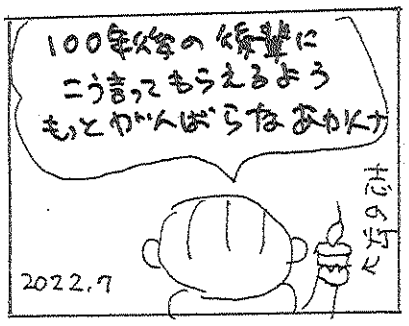
フツーの人々 〈1178〉

2022年7月









和歌山市職員採用試験（受験案内）

人事委員会事務局から6月24日、以下の通知がありました。

1、試験の種類（採用予定）
行政職Ⅲ種（3）、社会福祉士、薬剤師、学芸員（日本近世美術）、同（日本考古学）、障害者対象の行政事務、保育調理業務員（各1）、保健師（2）、保育士（8）、消防職Ⅲ種（5）、環境整備員（4）、学校給食調理員、JETプログラム型事務職（1）

2、募集期間
7月1日（金）から8月3日（水）まで

3、第1次試験日
9月18日（日）
※ソーナターン型は、9月12日（月）から25日（日）までの期間、テストセンター方式で実施。

4、試験に関する問い合わせ
和歌山市人事委員会事務局
電話073-435-13
7　住所、七番丁17、朝日ビルディング2階

今週のフツーの人々（その341）

百年後の日本は？

7月15日で日本共産党は創立百年。百年前、日本の主権は国民になく、女性に参政権がありませんでした。主権は天皇にあり、天皇絶対の価値観で、国民主権を掲げた日本共産党は弾圧の対象とされ小林多喜二や伊藤千代子など多くの若い活動家が殺されました。

国民主権と戦争放棄の平和憲法が出来てから生まれた私が入党して48年、そのうち32年ほど、議員・候補者として活動してきましたが、思うほど政治は良くならず、むしろ改憲勢力が広がるなど、暮らしと平和が脅かされています。百年先には、どんな日本になっているでしょうか。それまで大切にされていなかった平和憲法が大切にされ磨きがかけられ良い時代になったのは、百年前のみなさんのおかげだと言ってもらいたいものです。

ひめだ高宏

今どき小学生 くるみちゃん的生活 〈309〉

by おおえだけいこ

● のるか、そるか ●

↳しんぶん赤旗日刊紙に月2回（1・3土曜）掲載中です。7月2日分を紹介します。

こんにちは日本共産党です

「政治とカネ」疑惑

アベ首相時代の桜を見る会ではサントリーが大量の酒を無償提供し、違法な企業献金の疑いにとどまらず、酒税の見直しがサントリー側に有利になる方向で見送られた可能性も浮上。アベ元首相は一切説明しません。

河井夫妻による大型買収事件では、自民党本部から提供された巨額の資金が買収原資に使われた疑いがあるのに、岸田首相は調査を拒んでいます。

吉川元農水大臣の鶏卵汚職事件で自民党・遠山元財務副大臣の資金業法違反事件で公明党は、党としての調査解明を放棄。

金権腐敗事件を繰り返さないためには、疑惑を1つ1つ徹底究明し、けじめをつけることです。

また、金権腐敗の温床である企業・団体献金の全面禁止、政党助成金の廃止は欠かせません。

潮流

（22.7.4日刊赤旗）

「日本の防衛力を5年以内に抜本的に強化し、その裏付けとなる防衛費の相当な増額を確保する決意だ」。日本の首相として、初めて北大西洋条約機構（NATO）首脳会議に出席した岸田文雄首相は居並ぶ各国首脳を前にこう宣言しました▼念頭にあるのは、自民党の参院選公約である軍事費の「5年以内の国内総生産（GDP）2％への引き上げ」です。現在の5・4兆円から1兆円へ2倍以上に。文字通りの大軍拡です▼そうした主張をするのなら、財源とセットで示すのが民主政治の最低限の責任です。ところが首相は財源について口をつぐんだまま、一方的に軍拡を対外公約。国民不在の極みです▼1989年の消費税導入の旗振りをした渡辺美智雄自民党政調会長は、外国人記者クラブで「昭和65年（90年）までは年々5・4％ずつ実質的に防衛費を伸ばすお約束が（米政権と）ある。そうすると、ますます財源がなくなる」と述べ、社会保障などが犠牲になることを事実上認めました▼いまの大軍拡の動きにも、同じような背景があります。米国がNATO加盟国に「GDP比2％」を要求し、「対中国」で軍事分担の拡大を要求されている日本も足並みをそろえて大軍拡に踏み切る。その財源は消費税などの増税か軍事国債か、社会保障の削減にならざるをえません▼日本が大軍拡に踏み切れば、中国やロシアもさらなる軍拡に踏み切り、平和と暮らしを破壊する悪循環をもたらすことは明らかです。破滅の道を許してはなりません。

しんぶん赤旗 日刊紙・日曜版の普及にご協力を